

令和8年度「公共セミナー」シラバス

科目名		必修・選択	単位数	類型
公共セミナー		選択	2	GC+普通科文型
教科書 副教材等	・教育図書『高等学校 公共』（1年次使用） ・実教出版『詳述公共 新訂版』 ・第一学習社『最新公共資料集』（1年次使用） ・実教出版『詳述公共 新訂版 マイノート』			

1 学習目標

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 学習概要

- ・第1章の「公共の扉」では、他者との協働によって国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶとともに、社会に参画する際に選択・判断するための手がかりとなる**概念や理論を理解する**。
- ・第2章の「現代社会の諸課題」では、「公共の扉」で身につけた公共的な空間における基本原理をもとにして、現実社会の諸課題に関わる主題（法・政治・経済）を設定し、**他者と協働して課題を追究したり解決したりするための学習活動を行う**。
- ・第3章の「持続可能な社会へ」では、共に生きる社会を築くという観点から課題を見出し、第1章と第2章で培った社会的な見方・考え方を働かせて、**課題解決に向けて自分の考えを説明したり論述したりする活動を実践する**。

3 学習方法

（1）授業への取組

受験を見据えて、問題演習をたくさん行います。1年次の学習の復習をしながら、しっかりと覚えるべき用語を覚え、知識を繋げる活動を積極的に行ってください。

（2）家庭学習

記憶の定着には繰り返すことがなにより大切になります。授業でやったことを繰り返し復習することを心がけてください。

（3）学力向上のために

授業や模試等でやった問題をそのままにせず、暗記するくらいやり直してください。そうすると、問題になりやすい部分が次第に見えてきます。また、資料読解問題も近年増加傾向です。たくさん問題を解きながら慣れていきましょう。

4 評価について

（1）評価方法

「知識・技能（①）」、「思考・判断・表現（②）」、「主体的に学習に取り組む態度（③）」の3観点で評価を行います。

具体的な評価方法は以下の通りです。

「知識・技能（①）」：定期試験・小テストなど

「思考・判断・表現（②）」：授業プリント・課題作品など

「主体的に学習に取り組む態度（③）」：ノート・提出物・授業態度・課題作品など

上記の項目を勘案し、単元及び学期、学年の評価とします。

(2) 評価規準

	知識・技能 (①)	思考力・判断力・表現力 (②)	主体的に学習に取り組む態度 (③)
評価規準	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい (内容のまとめごと)	考查等
一 学 期	第1章 公共の扉 1 公共と人 2 公共と倫理 3 公共の基本原則 第2章 現代社会の諸課題 1 法	1 公共と人 1. 人は一人では生きられない 2. 人はどのようにつながるのか 3. 自由と正義の実現を目指して 4. 対話から生まれる公共 5. 日本の公共思想 2 公共と倫理 1. 功利主義と義務論 2. 水俣病を考える 3. 地球温暖化問題 4. 誰が医療を支えるのか 3 公共の基本原則 1. 生徒会予算をどう分配するか 2. 意見が分かれたときどう決めるか 3. 民主政治の歴史 4-1. 日本国憲法の三つの原理 4-2. 基本的人権の尊重、平等・自由・義務 5-1. 大学入試と男女差別 5-2. なぜ女性医師が日本では少ないのか 6. 表現の自由とヘイトスピーチ 1 法 1. 法と社会 2-1. 多様な契約 2-2. 消費者の権利と責任	期末考查
二 学 期	2 政治 3 経済	3-1. 日本の司法制度 3-2. 国民の司法参加 2 政治 1-1. 選挙と政治参加 1-2. 公正な世論の形成 2-1. 国会と内閣 2-2. 地方自治 3. 国家主権と領土問題 4-1. 安全保障と防衛 4-2. 21世紀の世界情勢 5. 国際社会と日本 3 経済 1. 職業選択 2-1. 雇用と労働 2-2. 労働者の権利 3-1. 財政の役割 3-2. 財政のしくみと国債 4. 少子化と社会保障 5. 市場経済の役割と限界 6-1. 金融のはたらき 6-2. 日本銀行と金融政策	期末考查
三 学 期	第3章 持続可能な社会へ	7-1. グローバル化と経済統合 7-2. 格差是正と多文化主義 1 演劇で表現する 2 地域社会とともに学ぶ 3 バリアフリー社会の実現を目指して 4 SDGsの実現のため私たちができること	